

20. 小さな現場でこそ光る建設維新ICT3.0

推薦整備局等	中国地方整備局
地方公共団体名	山口県
取組主体	山口県

【取組概要】

山口県が進める「建設維新ICT3.0」は、地方の中小建設会社でも実践できる、身近で実用的なICT活用を重視したプロジェクト。国土交通省が推進するi-Construction2.0を踏まえつつ、小規模現場でも効果を実感できる制度づくりに取り組み、県発注工事だけでなく、市町発注工事を含めた地域全体で建設DXを推進している。

ICT活用工事が地方で広がりにくい背景には、誤解や外注依存といった課題がある。こうした課題を解消するため、技術導入だけでなく業務プロセスの見直しも進め、省人化・生産性向上や働き方改革を目指している。さらに、指定型の拡大、体験型セミナー、SNS発信、市町支援など、多面的な現場主導の取組で、持続可能なインフラ整備を後押ししている。

建設維新ICT3.0～10の取組み～

①内製化支援プロジェクト～私たちはできる型～

- ・ICT活用工事に取り組むことが原則
- ・3次元設計データ作成外注不可。
- ・発注者の負担で取組みを全面的にサポート



②発注者指定型の導入と拡大

- ・ICT建機を使うことがICT活用工事ではないこと、ICTの活用は現場の規模を問わないというメッセージを出すため、土量や金額による制限は設けない方針
- 発注者指定型の対象
 - ・3次元データが準備されている工事（全ての工種を対象）
 - ・河川体積土砂撤去工事（ICT土工）
 - ・路盤工事（ICT舗装工）
- ※TSIによる出来形管理も可！

③建設現場の生産性爆上げイベント

- ・令和6年度は40以上のイベント
- ・参加者はのべ2,000人以上！
- ・令和7年度国土交通白書に掲載された「コナビ」を使って拡散！



④建設維新ICTセミナーのアップデート

- ・より小規模現場でするICT活用工事について学び、内製化を促進するためのセミナーにアップデート



⑤"はじめ""ホンキ""極み"体験会

- ・熟練度に応じた体験会を開催
- ・これまで30回以上の開催
- ・のべ1,000人以上が参加



⑥建設維新ICT支援プロジェクト

- ・人口5万人規模の下松市が発注する現場を対象に支援を実施
- ・3次元設計データ作成や、3次元点群データ活用について、受発注者が一体となって学ぶ
- ・令和7年度は光市と周南市でも実施



⑦建設維新ICT勉強会

- ・発注者自身も最近の動向や監督・検査業務における実施内容を学ぶ必要あり
- ・3次元データを身近に感じてもらうためのイベントも開催



⑧建設維新ICT動画の公開

- ・多くの経営者に建設業界の課題やICT活用の必要性を届けるため、同じ立場の経営者が中心となって語る動画を制作



⑨建設維新スリム化セミナー

- ・建設現場の生産性向上には、ICTの活用に加え、書類のスリム化や各種業務の効率化といった現場支援の取り組みも不可欠



⑩SNSによる情報発信

- ・建設産業の魅力や取組に関心を持ってもらい、理解や信頼の向上、将来の担い手確保につなげるために、SNSを活用した情報発信を実施
- ・令和7年5月にフォロワー数2000超



- 地方の中小建設会社でも実践可能なICT活用を推進し、生産性向上と技術力の底上げを実現。ICT工事件数や実施企業は年々増加し、研修や体験会には産学官が幅広く参加。SNS発信による普及や建設業のイメージ改善にも効果を発揮。
- 地方建設業の実情に即した先進的なICT活用モデルであり、「内製化」を条件とした発注者指定型ICT工事や、機材不要のセミナーにより中小事業者でも取り組みやすい仕組みを構築。さらに、市町を対象とした個別支援プロジェクトを展開し、実践的な成果を創出。
- 高額なICT建機や専門人材を必要としない「身の丈に合ったICT活用モデル」であり、他自治体でも即時導入可能な点で波及性が極めて高い。